

東北地方太平洋沖地震 哀悼とお見舞いを申上

地震・津波の被害もさることながら、放射能汚染も・・・

安否確認の取れない人が1万人以上と・・・町や村が全滅

「阪神淡路大震災」の時は、その当日、神戸の現場へ応援に行くことになっていました（当時は鉄筋屋）。しかし、本棚の本が散乱して、整理が大変なで、集場所へ行つて、私は休むことに。他の人は車で神戸に向かいました（その時点で、誰も神戸の状態を知らなかった）。当然、神戸に到着することはできず、引き返してきました。

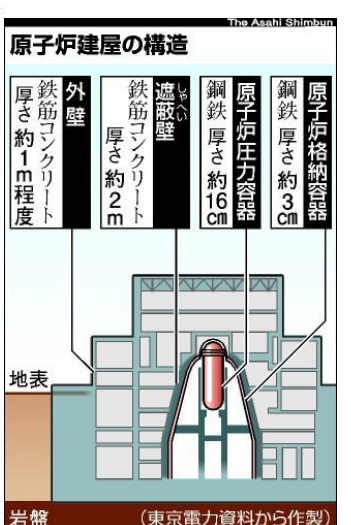
今回の「東北地方太平洋沖地震」の時は、パソコンに向かつて、作業中でした。自分の意思に関係なく、頭がフラツと、前に1、2回ゆれたような気がしたので、「これは根を詰めすぎたせいや、少し身体を動かさな」と、机から離れて、軽い体操を行いました。

いくら情報社会といっても、やはり瞬時には伝わらない。地震のことを知ったのは、夕方のことになります。甚大な被害の情報も伝わってきても、やはり、遠方のこと、多くの人が亡くなり、これまで積み重ねてきた生活基盤を失った人が沢山いることについて、なにやら気が沈む思いはありますが、生活パターンそのものが、変わることはありません。

東京電力は13日午前8時41分、福島第一原子力発電所の3号機で、高まっていた原子炉格納容器内部の蒸気を放出して内部の圧力を下げる弁を開けることに成功した。／弁の開放は、12日の1号機に続き2例目。これにより、環境中にセシウムなどの放射性物質が環境中に放出された可能性が高い。3号機は、緊急炉心冷却装置（ECCS）が作動しなくなり、過熱して炉内の圧力が高まっていた。／東京電力は、同様にECCSが作動せず温度が上昇している福島第二原発の1、2、4号機でも今後、弁の開放を検討している。（読売新聞・ネット版）

■これまでに起きた主な原子力施設事故

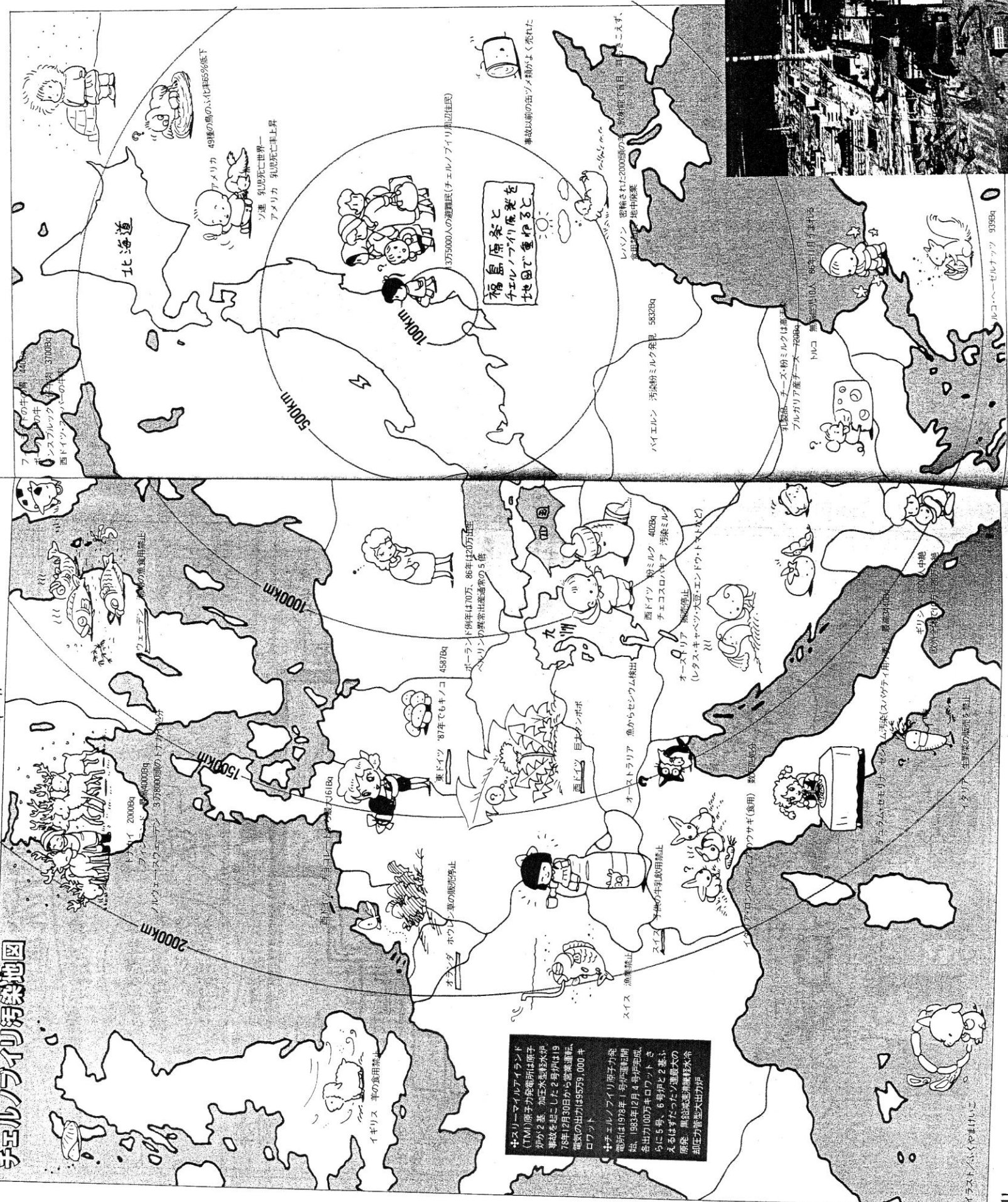
| | |
|-------|--|
| 1979年 | 米スリーマイル島原発事故。炉心の半分が溶けて放射性物質を含む蒸気が外に漏れた |
| 86年 | 旧ソ連チェルノブイリ原発事故。原子炉の出力が急上昇して爆発。放射能が高温の蒸気となって大気中に噴き出した |
| 91年 | 美浜原発2号機事故。蒸気発生器の伝熱管が破断して原子炉が自動停止、ECCSが作動した |
| 95年 | 高速増殖炉「もんじゅ」事故。冷却剤のナトリウムが漏れた |
| 97年 | 東海村爆発事故。核燃料再処理施設で火災・爆発が起き、作業員が被曝 |
| 99年 | JCO臨界事故。ウラン加工工場での臨界事故が起き、作業員2人が死亡。住民ら600人以上が被曝 |



只、気がかりだったのは、原子力発電所に関する情報が少なかったこと。結果は、関西といえども「直接被害はない遠方の話」といつておられない事態も起こりうる。いや、もう放射性物質が放出されている可能性が高く、風向きによっては時間の問題かも。

「なるべく、屋外に出ない。肌を露出させない。マスクをする」といったことが、自己防衛としてできることだと思います。大きな余震が起きる確率、3日以内で7割と。

チェルノブイリ汚染地図



チェルノブイリ汚染地図

1986年4月26日、ソ連ウクライナ地方チェルノブイリ原発で起った大規模な原発事故は、ソ連国内ばかりでなくヨーロッパ各国の土地、食物に多大な放射能汚染をもたらした。空中に舞い上った放射性物質は8000キロ離れた日本にも到達した。

38年もの原発が動き続ける日本は、これらヨーロッパの汚染地域よりはるかに小さな面積でしかない。ここで同様な事故が起れば、日本はどのようなだろう。よく考えてほしい。

